



TITLE:

京都ニ於ケル舊時ノ塩屋仲間

AUTHOR(S):

本庄, 榮治郎

CITATION:

本庄, 榮治郎. 京都ニ於ケル舊時ノ塩屋仲間. 經濟論叢 1918, 6(4): 481-495

ISSUE DATE:

1918-04-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127365>

RIGHT:

京都帝國大學法學大科

經濟論叢

第六卷 第四號

大正七年四月一日發行

論說

『座』ノ研究(再ビ).....

文學博士

三浦周行

農會瑣言.....

法學博士

財部靜治

京都ニ於ケル舊時ノ鹽屋仲間.....

法學士

本庄榮治郎

營業稅ノ課稅標準(二)卷.....

法學博士

神戶正雄

Uno this Lastヲ讀ム(二)卷.....

法學博士

河上肇

職工組合論(二).....

法學士

河田嗣郎

我國^{ニ於ケル}營利心ノ起源及發達(三).....

文學士

銅直勇

時事問題

米國禁輸問題ノ解剖.....

法學博士

神戸正雄

勸業及農工銀行ノ合併ニ就テ.....

法學博士

戸田海市

雜錄

大阪市ニ於ケル窮民ノ家計(一).....

法學士

櫛田民藏

續獨逸經濟學界近況(二).....

文學士

米田庄太郎

物價卜割引歩合卜ノ平行.....

文學士

高田保馬

米國ノ戰時海運政策(二)卷.....

法學士

岸本熊太郎

米國ノ戰時租稅法(二).....

在米

阿部賢一

帝國統一後ノ獨逸ノ植民の活動(上).....

文學士

山本美越乃

京都ニ於ケル舊時ノ鹽屋仲間

本庄榮治郎

前號ニ大阪ニ於ケル鹽屋仲間ノ沿革ヲ述ヘタルニ因ミ、本號ニハ京都ニ於ケル舊時ノ鹽屋仲間ノ興廢ニツキテ述フル所アラントス。而シテ大阪ニオケル鹽商人ノ沿革ニ就テハ大阪同盟鹽屋組合沿革史アリテ、ソノ變遷ヲ論述シ、且種々ノ舊記ヲ蒐集セルノミナラズ、又別ニ二三舊記ノ存スルモノアリ、且大阪市史大阪府誌等ニ於テモ多少之ニ就キテ論スル所アリシト雖、我が京都ノ鹽仲間ニツイテハ、事情之レト相反シ、平安通志、京都府誌等ニハ何等論ズル所ナク、京都御役所向大概覺書、京都叢書等ニ於テモ之ニ關スル史料ヲ得サリシハ大ニ遺憾トスル所也。タダ幸ニ京都醬油史蹟(大正五年八月刊)ナル一書アリテソノ卷末ニ京都鹽販賣業者仲間ノ變遷ト題スル一章ヲ設ケ簡單ナル説明ト二三舊記ノ全文ヲ掲出シアルヲ以テ漸ク之レニヨリテ京都鹽屋仲間沿革ノ一斑ヲ察スルヲ得タリシ也。而シテ右ノ京都醬油史蹟ノ著者ニシテ古來ヨリ引續キ盛大ニ醬油釀造販賣ノ業ニ努メラレツツアル岡村秀太郎氏ハ商用繁忙ノ中ニモ洵ラス余ノ質疑ニ應セラレ、且珍藏セララル數多ノ舊記古文書類ヲ借覽スルコトヲ許サレタルヲ以テ、爰ニ聊カ京都ニ於ケル舊時ノ鹽屋仲間ニツキ論スル所アフントス。而シテ右ノ京都醬油史蹟ナル好著ガ非賣品ニシテ廣ク一般ニ讀マレ居ルモノト信スルヲ得サル點ヨリスルモ、余ガ茲ニ舊時ノ京都鹽屋仲間ニツキ聊カ項目ヲ分チテ之レカ變遷ヲ論スルハ、必スシモ無用ノ業ニ非サルヘキ歟。尙岡村氏ノ好意ニ對シテハ茲ニ深厚ナル謝意ヲ表スルモノ也。

一 鹽屋仲間ノ興廢

一、維新前。京都ニ於ケル鹽問屋ノ起源ヲ明カニ限定スルハ頗ル困難ナレトモ、既ニ慶長年間

論說

京都ニ於ケル舊時ノ鹽屋仲間

第六卷 (第四號 二九) 四八一

ニ於テ京都ニ鹽商人ノアリシコトハ他所買鹽仲間前帳(出水組ノモノニシテ嘉永六年十二月ノ日付アリ)ニ『尙又右翌己年(寶曆十一年)大阪御役所エ被召出彼地鹽問屋共ヘ懸合來候儀ニ付御尋之上萬端慶長年中ヨリ往來候通ニ取計可致旨被仰渡御請書奉差上候』云々トイヘルニヨリテ明カ也。寶曆十年八月ニハ往古ヨリ京都鹽問屋タリシモノ二十四軒ヲ以テ元鹽屋ト稱シタルガ、尙其外他所買鹽仲間百五軒地買鹽仲間數百軒アリテ何レモ元鹽屋取締ノ下ニ立チタリトイフ。天保十二年諸問屋仲間ヲ停止シ嘉永六年之ヲ再興スルニ當リ、鹽問屋モ亦同一ノ運命ニ遭逢シタルコト勿論ナルガ、仲間再興後ノ變化トシテハ、當時ノ觸書ニ『尤他所買鹽屋ハ此後人數相減候ハバ以前之定人數追々減切ニイタシ以前人數定無之分ハ増減勝手次第ニ可致候。其外何レモ此度差出候觸書之趣相守物價引下ケ方厚心懸ケ實直ニ渡世相營不取締之儀無之様可致候。自然手狹窮屈ノ儀在之候ハ仕來ニ不拘便利ノ方ニ申付候間其旨可存候』⁽¹⁾トイヘルニヨリテ之ヲ察スヘク、安政年間ニオケル仲間人名ニヨレハ元鹽屋二十一軒、他所買鹽屋九十九軒ヲ算スルヲ以テ前者ハ三名後者ハ六名ノ減少ヲ見タルモノナルベシ。地買鹽屋仲間ノ數ハ數百軒ノ多キニ上リ常ニ多少ノ増減アリシカ如シ。

二、維新後。鹽仲間ノ廢止セラレタル後ト雖、京都ニ於ル鹽ノ供給ハ全ク伏見及大阪ノ問屋ヨリ之ヲ仰キ、伏見ハ京都ニ對スル鹽ノ集散地トシテ問屋十數軒ヲ數ヘ三十一年三月伏見鹽商組合ノ設立ヲ見タルモ、三十七年四月專賣法ノ實施セララルニ及ンテ、該組合ハ解散シ、元賣捌人ハ伏見

- (1) 嘉永六年十二月出水組ノ地買鹽仲間前帳(以下略シテ地買仲間帳トイフ)
同年同月出水組他所買鹽仲間前帳(以下略シテ他所買仲間帳トイフ)
(2) 地買仲間帳參照

ニ一人京都市ニ五人ノ指定ヲ受クルコトナリ、從來伏見ノ京都ニ對シテ有シタル地位ハ殆ント其影ヲ止メサルニ至レリ。而シテ四十三年ニ設立セラレタル京都鹽元賣捌人組合ハ京都府下一圖ヲ其區域トスルモノナリシガ大正三年之ヲ解散シ京都市及愛宕葛野兩郡ヲ區域トスル組合ヲ再興シタリ。元賣捌人組合ノ成立ニ續キテ京都市ニ於ケル鹽小賣人組合モ設立セラレタルガ事務ノ繁雜ナルト效果少キトニヨリ遂ニ四十五年七月解散シ、現今元賣捌人ハ京都市ニ於テ三名、小賣人ハ約五百名ヲ算ストイフ。⁽³⁾

二 三仲間相互ノ關係

一、概論。上述セル所ニヨリテ京都ニ於ケル鹽販賣者ノ中ニハ元鹽屋ト他所買鹽仲間ト地買鹽仲間トノ三仲間アリシコト明カナルガ、然ラバソノ職分及ヒ相互ノ關係ハ如何トイフニ、元鹽屋ハ往古ヨリ鹽商賣ヲナセル二十四軒ノモノノ組織セル所ニシテ大阪或ハ伏見鹽問屋ヨリ供給ヲ受ケ之ヲ鹽小賣人(地買仲間)ニ賣渡スヲ通常トシ、他ノ二仲間ニ對シテ元締タル地位ヲ占メタルモノナリ。他所買仲間ハ大抵ハ造リ醬油屋、味噌屋ソノ他鹽ヲ多ク扱フ所ノ者ノ仲間ニシテ、大阪伏見又ハ製鹽地ヨリ直接ニ鹽ヲ買入レ、地買仲間ハ主トシテ元鹽屋ヨリ買受ケ⁽⁴⁾(他所買仲間ヨリ買入ルルコトモアリ)之ヲ需要者ニ供給スル小賣商人ノ仲間ヲ云フニ外ナラサル也。而シテ他所買仲間ガ造醬油屋又ハ味噌

(3) 京都醬油史蹟 329-345頁

(4) 京都醬油史蹟 302-4頁

屋ノ兼業ナルコトハ上述ノ如クナルガ、元鹽屋及地買仲間モ亦然リシコトハ元鹽屋地買仲間等ノ仲間人名帳ト造醬油屋仲間ノ人名帳トヲ對比セハ自ラ明カナル所也。蓋醬油ト鹽トハ離ル可ラサル關係ヲ有シ從テソノ販賣ニツイテモ醬油又ハ味噌ヲ主トシテ鹽ヲ兼業トスルニ至リシモノニシテコノ慣習ハ現今ニ於テモ又依然トシテ存スルハ言フ迄モナキ所ナリ。

二、元鹽屋ノ他ノ仲間ニ對スル地位。元鹽屋ガ鹽ニ關スル事柄ニツイテハ萬端之レカ取計ヒヲナシ所謂元締タルノ地位ニアリシコトハ上掲ノ文言中ニモ明カナル所ナルガ、尙他所買仲間帳ニハ更ニ

『他所買鹽屋ノ儀他所買株百五軒ニ軒數相定メ申度旨元鹽屋年寄ヨリ御願申上候處御聞届被成下難在奉存候、然ル上者鹽筋萬端古來ヨリ仕來候通元鹽屋二十四軒萬事取計他所買株之儀茂株數之通ヲ以永世渡世相續相成候様規矩相立申候ニ付自今已後連モ前々ヨリ仕來之通鹽筋一件萬端元鹽屋之差圖ヲ請無差支様正路ニ商用相勤他所買株讓替貸付其外變宅名前替右品替之節者其時々元鹽屋年寄ヨリ相改候而御届ケ申上仕來之通ヲ以テ名前帳面ニ點合仕差上可申候事』

トアリテ他所買仲間トノ關係ヲ知ルヘク、又地買仲間帳ニハ

『寶曆十三末年被仰渡候趣ハ鹽商ヒ仕候者ハ元鹽屋年寄エ名前差出印形仕差圖ヲ請候様可致候安永七戌閏七月元鹽屋ヨリ奉願上鹽商賣仕候者トモハ仲間間エ加入仕候而商賣可仕旨申通候儀被爲

仰付地買鹽商賣人取締申候(中略)地買鹽商人仲ケ間モ元鹽屋之取計ヲ以名前帳面印形奉差上銘々印札所持仕候然ル上ハ地買之面々鹽商賣方隨分正路ニ仕互ニ差支成筋不仕以來品替之節ハ早速元鹽屋年寄エ相届年々其品元鹽屋年寄ヨリ御届ケ可申候」云々

トアリテ他所買仲間地買仲間共ニソノ仲間人名帳ヲ元鹽屋年寄マテ差出シオキ、萬事ソノ取締ノ下ニアリシコトヲ知ルヘキ也。

三、三仲間ノ取引關係。次ニ取引上ノ關係ハ如何トイフニ、他所買仲間ハ前述ノ如ク造醬油屋味噌屋等鹽ヲ多ク取扱フ者ノ組織スル所ナルカ故ニ大阪伏見若クハ製鹽地等ヨリ供給ヲ受ケタル鹽ハ醬油味噌等ノ製造ニ用ヒラレ、僅カニソノ殘餘ヲ地買仲間ニ供給セシモノナルヘク、元鹽屋ガ地買仲間ニ供給スルヲ主タル目的トナセルモノトハ大ナル差異アリトイハサル可ラス。而シテ他所買仲間ヨリ地買仲間ニ供給シタルコトアルハ

『地買鹽商賣人之儀モ元鹽屋年寄ヨリ取計名前印形帳面差上置候間地買内エ加入無之者ハ元鹽屋他所買鹽屋ヨリ鹽一切賣渡申間敷互ニ向寄ヲ以相糺加入爲致候上商用イタシ可申候事』⁽⁵⁾

トアルニヨリテモ知ルヘク、地買仲間ハ元鹽屋及他所買仲間ノ両者ヨリ供給ヲ受クルモノナリト雖、他所買仲間ノ業態上、コノ方面ヨリ多額ノ供給ヲ期スルコトヲ得ス、且

『地買之者共ハ京都之外他所ヨリ鹽一切買請申間敷旨承知仕候』云々⁽⁶⁾

(5) 他所買仲間帳

(6) 地買仲間帳

トイヘルニヨリ他地方ヨリ買入ルルコトヲ得サルヲ以テ結局ハ、主トシテ元鹽屋ヨリ供給ヲ受ケタルモノナルコトハ自ラ明カ也。

三 仲間内部ノ關係

一、行政區域。上掲ノ他所買鹽仲間名前帳ノ卷頭ニハ嘉永六年ノ仲間再興ノ觸書ヲ載セタル後元鹽屋他所買株ノ古來ヨリノ仲間定法ヲ掲タルガ、ソノ第一條ニハ

『京都鹽屋商賣人松原、河原町、出水、安居院^{アグイ}四ヶ所二十四軒ノ儀、於御役所樣段々御吟味ノ上（中略）寶曆十辰年八月鹽筋出入ノ節御裁許被成下二十四軒元鹽屋ト相唱候樣被仰渡、則鹽筋一件古來ヨリ仕來候通ニ取計ヒ』云々

トイヘルガ是ニ由リテ觀レハ元鹽屋二十四軒ハ更ニソノ居住場所ヲ基トシテ松原組、河原町組、出水組、安居院組ノ四組ニ分ダレタルコトヲ見ルヘシ。而シテコノ四區域ノ分割ハ元鹽屋ノミナラス、他所買、地買両仲間ニ就テモ行ハレタルコトハ仲間人名帳ガ各組ニ別タレオルヲ見ルモ明カナル所ニシテ、要スルニ京都市内ニオケル鹽商人全部ガコノ區域ニ分ダレシモノ也。而シテ市外ニ在ルモノニ就テハ、或ハ散在所買鹽仲間、他所買⁽⁷⁾洛西ノ分、或ハ在方⁽⁸⁾地買等ノ稱呼ヲ用キ必ズシモ一定スル所ナカリシカ如シト雖、元鹽屋ノ取締ニ服シタルコトハ勿論ナリ。然ラハコノ區

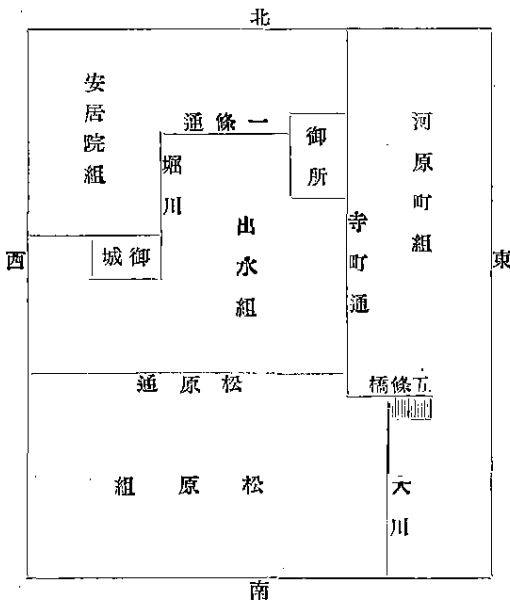
(7) 安政二年元鹽屋及他所買仲間人名

(8) 他所買仲間帳

(9) 地買仲間帳

域ノ分割ハ單ニ同業者取締ノ上ヨリ行ハレタルモノナルカ、又ハ販路分割かるてゐるノ如キ競争ヲ避クル性質ヲ有スルモノナルカハ之ヲ十分ニ説明スヘキ史料ナク、今俄ニ斷スルコトヲ得スト雖經濟發達ノ大勢ヨリ見テ恐ラクハ同業者取締ノ便宜上コノ區分ヲナセルモノト解スルヲ適當トスベシ

(註) 今、他所買仲間帳ノ卷末ニ記セル圖面ヲ縮寫シテ以上四組ノ地域ヲ示サハ左ノ如シ。



松原組
東 寺町、下ニテ大川
西 野迄
南 松原迄
北 松原迄

河原町組
東 寺町、下ニテ大川
西 野迄
南 伏見、西門迄
北 野迄

出水組
東 寺町迄
西 野迄
南 松原迄
北 堀川迄
御城、東ニテ一條迄

安居院組
東 堀川、北ニテ寺町
西 野迄
南 御城迄
北 鷹ヶ峰ヨリ野迄

二、行政機關。上述ノ如ク總鹽屋ニ對スル取締ハ元鹽屋ノ掌ル所ナリシヲ以テ、之レカ機關ノ如キモ亦元鹽屋ノ中ヨリ選任シタルガ如シ。即チ元鹽屋年寄及年行事コレナリ。年寄ハ任期五ヶ年役料一ヶ年銀十枚内半季五枚宛渡ノ定メニシテ、⁽¹⁰⁾年行事ハ年寄ノ下ニアリテ諸般ノ事務ニ軼掌シ必スシモ一年交代ニハ非リシカ如シ。⁽¹¹⁾他所買仲間帳ニ

『元鹽屋年寄一人鹽屋中爲總代東西御役所様エ爲御冥加年頭八朔御禮奉申上渡世無恙相續仕來申候』

トイヘルハ元鹽屋ガ總鹽屋ニ對スル取締ノ地位ニ在リシヲ以テ年頭八朔ニハ元鹽屋年寄ノ名義ヲ以テ東西兩役所ニ冥加金ヲ納メ株仲間ノ公認、營業ノ存續ヲ期シツツアリシ也。

三、經費徵收。仲間入用銀ハ勿論總鹽屋中ヨリ之ヲ徵收シタルモノナリ。即チ寶曆十年八月元鹽屋成立ノ際古來ノ仕法ニ從ヒ、總鹽屋中ヨリ入用割合ヲ請取ルヘキ旨ヲ令シタルガ、而モ往々ニシテ之レカ納付ヲナサザリシモノ少カラサリシカ如ク各仲間定法等ニ於テハ屢入用割合銀ヲ差出スヘキ旨ヲ明定セルノミナラス寶曆十四年十二月ニモ、⁽¹²⁾滯リナク入用割合差出スヘキ旨ヲ令シ、⁽¹³⁾文化十二年十一月ノ御觸書ニモ

『洛中洛外鹽屋共仲間入用割合銀不差出者在之候ニ付仲間割合銀無滯可差出旨申通サセ』⁽¹³⁾云々

(10) 安政四年、年寄請狀寫

(11) 他所買仲間帳ノ年行事連名ノ條參照

(12) 他所買仲間帳

(13) 他所買仲間帳及地買仲間帳

トイヘリ。以テ這間ノ事情ヲ察スヘキ也。

四、取引ニ關スル内部規定。三仲間相互間ニオケル取引ノ經路ニツイテハ既ニ述ヘタル所ノ如クナルガ、ココニハ取引ニ關スル内部ノ規定ニツキ一言スル所アルベシ。定法ニ⁽¹⁴⁾

『赤穂島灘三鹽商ヒ方ノ儀時々相場直合又ハ跡直ニテ直立無之節ハ互ニ直段承リ合相考心得違無之様可申續候、常式口錢ノ外利潤ヲ不相懸平生平等ニ賣捌可申候事』

『計賣ノ儀第一升ノ口減シ申間敷得ト相計ヒ可申候勿論直段俵賣割合ヲ以テ賣渡可申候。此外黒鹽砂鹽之直合ヲ以テ紛敷安賣等ノ札廻ハ不仕別テ建札仕致商用間敷候事』

『灘鹽近來脇濱余鹽出口不宜直安成鹽數多入込候テ本鹽ト格別致相違候鹽ヲ紛敷申立安賣札廻シ候儀在之、本鹽直段違候故一同ノ差支ニ相成申候。前ヨリ相定メ候通り鹽商人又ハ素人方へ商内致候ハバ隨分正道ニ鹽出口致吟味候テ不正ノ代呂物相分、夫々直段相撰ヒ致相對、何レモ正路ニ商用可仕、少シモ紛敷儀不仕仲間中障リニ成候儀決テ仕間敷候事』

等トイヘルハ、取引ノ方法ヲ定メ、不正ノ利ヲ貪ルヲ禁シ商方正路ニ取扱フヘキコトヲ規定セルモノナリ。而シテ同定法ニ

『銘々賣先鹽代銀相滯取引及相對居候節ハ仲ケ間中エ其譯相届可申候、右取引不相濟内ハ互之事ニ候間外々ヨリ商用申間敷候事』

トイヘルハ

『銘々得意先耀合又者本鹽ヲ脇濱鹽杯ト申立相互ニ勝手儘不仕別テ我意之致方堅仕間敷候事』

トアルモノト同シク、代金ノ決済ヲ確實ニシ以テ仲間ヲ保護スルト共ニ得意先ノ爭奪ヲ防遏シ、以テ仲間員ノ和衷協同ヲ計リ自分勝手ノ行爲ヲナスコトヲ禁シ、仲間ノ平和ナル發達ヲ期セントスルモノニ外ナラス。尤鹽代金ノ決済ハ大阪ニ於ケル場合ト同シク通常ハ古來現金取引ナカシリ如シ、故ニ代銀延滞ノ場合ハ或ハ例外ノ場合ナルヘシ。要スルニ

『鹽商ヒ方ハ勿論仲間作法之趣相守一人立自分勝手考一同之妨ニ成候儀仕間敷候事』⁽¹⁵⁾

トイヘルモノハ以上ノ規定ニ對スル根本精神ヲ示スモノトイハサル可ラス。

(註) 他所買仲間帳ニハ奉公人ニ對スル取締ニツキテ他ノ株仲間ニ就テモ往々見ルカ如ク『銘々召仕候半季又ハ半季奉公人之儀其主人方不奉公不勤ト致候者ハ其旨聽中へ相届右鉢之奉公人ハ決而何レエモ召抱申間敷候。尤其主人無差違者ニ候ハハ是又届合候而召抱可申候事』ト規定シタルガ、而セソノ根本精神ニ至リテハ上掲セルモノト同シク仲間ノ安穩協同ヲ策スル上ヨリ出デタルモノト見サル可ラス。

四、外部ニ對スル關係

一、大阪及ヒ伏見鹽問屋ニ對スル關係。上述ノ如ク京都ニ供給セラルル鹽ハ主トシテ大阪伏見ヲ經テ入り來ルモノニシテ、元鹽屋カ大阪鹽問屋へ掛合ヒ鹽相場高下ヲ糺シ船賃運送等スヘテ鹽ニ

(15) 前號掲載拙稿大阪ニ於ケル舊時ノ鹽問屋 48頁參照

(16) 他所買仲間帳

關スル事件ヲ取扱ヒタルコトハ既掲ノ文書ニヨリ明カナルガ、文化二年ニ大阪鹽問屋ト取引セシ
京都鹽商人ノ名前ヲ列舉セルモノニハ元鹽屋株二十四軒分ト他所買株百五軒分トヲ舉ケタルヲ以
テ、元鹽屋ノミナラス、他所買仲間モ大阪鹽問屋ヨリ鹽ノ供給ヲ受ケタルコト明カ也。

(註) 慶應元年ノ口上書ニハ「御當地ハ勿論大阪表ニモ鹽拂底イタシ段々高直ニ付濱方ヨリ一向入船モ無數、登セ方モ不致候
付色々大阪上積問屋、エモ及懸合、尙問屋ヨリモ元方ニ精々引合罷在候得共何分鹽拂底之義ニ付入船モ無數」云々トイヒ、又

大阪方面ノ史料ニハ寶曆十一年己十月和泉屋長兵衛外十一名ヨリ上積十三軒問屋へ差出シタル一札ノ中ニハ
一、上積德意衆ノ内何方ニ不寄現銀買ニ被參候仁有之候ハ早速御仲ケ間中へ相届ケ、御糶モ無之候ハ其上ニ而商内可致
候、御差圖無之内候リニ商内致問數候事

一、京都洛中洛外鹽屋名前此度書付差出申候、此後新規ニ鹽商賣被致銘々之鹽買申度被申候仁有之候ハ早速御仲ケ間中へ
相届御差圖之上ニ而積送リ可申候事。

トアルニ徴スレハ大阪ニ上積問屋ナルモノアリテ京都へ鹽ヲ供給シタルコトハ明カナリ。然レトモ右ニ文書ノ申後ノ文書ニ
ヨレハ、コノ上積問屋ノ外ニ他ノ問屋モ亦京都へ鹽ヲ供給スルヲ得タリシカ如シト雖、以上ノ史料ノミニテハ還聞ノ關係ナ
十分ニ明カニスルヲ得サルヲ遺憾トス。

京都ニ對スル鹽ノ供給ハ又伏見鹽問屋ニヨリテモ行ハレタリ。文政九年ノ文書ニ、

「私共仲ケ間(伏見鹽問屋仲間)一統近來段々及困窮銘々渡世取續難相成難蘆仕候處伏見表外諸荷
物問屋口錢増方出來仕、私共渡世鹽荷物之儀ハ外諸荷物トハ格別之譯合ニ付此度京都元鹽屋御仲
ケ間、エ口錢一分五厘増方之儀段々御願申上候所御相談之上來亥年正月ヨリ來丑年十二年迄三ヶ年

(17) 他所買仲間及地買仲間
(18) 大阪同鹽問屋組合
(19) 「元鹽屋仲間」ト題スル元鹽屋仲間ノ日記帳ノ卷首ニ出ツ
(20) 大阪同鹽問屋組合
(21) 伏見鹽問屋株中ヨリ京都仕込醬油年番中ニ宛テタルモノ

之間三厘上ケ之儀御承知有之忝、右ニ付當御仲間(京都造醬油屋)之儀モ右同様御承知被成下度此段偏ニ御願奉申上候」云々

トイヘルハ、即チ伏見鹽問屋ヨリ京都元鹽屋造醬油屋等ニ宛テ鹽ヲ供給セルコトヲ示スモノニ非スヤ。尙コノコトハ後段潰鹽ヲ述フル條ヲモ考合スヘキ也。

二、鹽價格ノ届出。鹽相場ハ大阪若クハ伏見ニオケル鹽問屋ト京都元鹽屋トノ間ニ決定セラルルヲ常トスルモノナルガ、相場高下ノ節ニハ元鹽屋年寄ヨリ先例ノ如ク之ヲ奉行所ニ届出テタリトイフ。⁽²²⁾ 慶應元年五月ノ口上書ニレハ

「當時ニテハ小豆島鹽灘鹽二口合一升ニ付百十七文四分餘ニ相成御時節柄之義奉恐入候得共右之仕合ニ付引下方モ無御座候ニ付百十七文ニ而賣出シ申度此段奉願上候尤モ元方ニ精々及懸合少々ニ而茂下直ニ相成候ハハ引下ケ方可仕候間御慈悲ニ右之趣御聞届被成下候ハハ有難可奉存候」云云トイヒ別ニ直段書ヲ添エテソノ允許ヲ乞ヘリ。カクノ如キ例ハ單ニ値上ノ場合ノミナラス値下ノ場合ニ於テモ亦然リトス。即チ慶應三年七月當時鹽一升二百三十四文ナリシモノヲ二百十二文トナサントセシ場合ニモ價格表ト共ニ右値下ノ儀ヲ聞届ケラレンコトヲ旨ノ口上書ヲ差出シタリ。⁽²⁴⁾ 蓋、鹽ハ米麥醬油類ト同シク日常生活必須ノ資料ナルヲ以テソノ暴騰暴落ヲ制スルノ一手段トシテ價格ノ變動ニ際シテハ之ヲ奉行所ニ届出テソノ認可ヲ乞ハシメタルモノニ外ナラサル也。

(22) 他所買仲間帳

(23) 元鹽屋仲間用

(24) 京都醬油史 328頁

三、鹽販賣業者ノ限定。京都ニオケル鹽取扱者ハソノ業態ニヨリ或ハ元鹽屋タリ他所買仲間タリ或ハ地買仲間タルヘキモノニシテコノ三仲間以外ニ於テ營業トシテ鹽ヲ取扱フコトハ之ヲ禁セラレタルナリ、故ニコノ三仲間中ノ何レカニ加入セサルモノハ鹽ヲ取扱フヲ得サリシ也。定法ニ『仲間外ニテ鹽商賣致候者在之追々差留メ申渡候。尤元鹽屋、他所買鹽屋一同取締候ニ付已來鹽屋仲間外之者襲ニ鹽他所買不致、鹽商ヒ致度モノハ鹽屋仲間ニ加リ商賣致候様元鹽屋年寄ヨリ願出候間鹽他所買者勿論鹽商賣致候ハミ右鹽屋仲間ニ加入致シ鹽商賣可致旨洛中洛外ヘ可申通旨被仰渡候事』

トイヘルモノ蓋コノ趣意ヲ明カニセルモノトイハサル可ラス。然ルニコノ規定ヲ無視シ仲間外ニテ鹽商賣ヲナスモノアリ、或ハ他ノ家業ノ副業トシテ鹽商ヒヲナスモノアリ、或ハ地買仲間ノ者ニシテ他所買ヲナス等ノ犯則者モアラハレシヲ以テ遂ニ元鹽屋年行事ヨリ奉行所ニ上願セシ結果文化十二年十一月ニ至リ鹽屋仲間外ノ者ハ鹽他所買ハ勿論鹽商賣ヲナスコトヲ得ズ、若シ之レヲナサントセハ仲間ニ加入スヘキ旨ヲ嚴達スルニ至レリ。⁽²⁵⁾

四、漬鹽ニ對スル例外。以上ノ如ク營業トシテ鹽ヲ取扱フ者ハ前述ノ三仲間ニ限ラレシモノナルガ、造リ醬油屋又ハ味噌製造者ニシテ製造用漬鹽ノミヲ買入ル場合ハ除外例トシテ一ノ特別ナル取扱ヲ受ケタリ。カノ他所買仲間ハ齊シク造醬油屋又ハ味噌製造者ノ組織スル所ナリト雖、コノ場合ハ製造用漬鹽ノ外ニ地買仲間ニ賣渡スヘキ鹽ヲモ取扱フモノナルニ反シ、ココニ述ントス

(25) 他所買仲間帳

(26) 他所買仲間帳及地買仲間帳

ル所ノモノハタダ製造用原料鹽ノミヲ仕入レ、少シモ他ニ供給スルコトナキ者ニシテ、彼等ハ鹽仲間ニ加入セストモ伏見及大阪ニテ鹽ヲ買入ルルノ特典ヲ認メラレタル也。即チ安永八年ニ造醬油屋ノ名前帳ヲ元鹽屋年寄ノ許ニ提出シオキ年寄ヨリ印紙(即チ證明書)ヲ得テ製造業者ナルコトヲ證シ、伏見又ハ大阪ニテ鹽ヲ買入レ鹽仲間ト同様ノ運送方法ニヨリテ京都へ輸入シタルモノナルガ、天明ノ頃ニ及ンテ、造醬油屋中潰鹽ト稱シテ内密ニハ販賣ヲナスモノヲ生スルニ至リシヲ以テ、鹽仲間ハソノ營業ノ妨害トナランコトヲ虞レ、奉行所ニ對シ造醬油屋ニシテ伏見表ヨリ鹽ヲ輸送セントスルモノノ人名帳ヲ元鹽屋へ差出スヘキ旨ヲ命セラレンコトヲ乞ヒ、奉行所ハ之ヲ認メ、造醬油屋モ亦之ニ應シ左ノ如キ一札ヲ差入レタルヲ以テ右ノ紛儀ハ漸ク解決スルヲ得タリ

一 札

一、此度鹽仲間爲取締醬油屋仕込潰シ鹽ニモ鹽仲間同様ニ高瀬川筋船積ノ儀者其許ヨリ印紙被差出、車積之儀ハ送リ狀ニ書添ヲ付、鹽荷物着無滞様可被致段致承知候。就夫ニ、造醬油屋總名前書相渡申候然ル上者運送無滞様取計可被致候尤安永八亥年其許ヨリ御願被成御觸書之趣被爲仰付其節總代之者御請書奉差上候ニ付仲ケ間中ニ申聞承知印形取置申候へ共、今以造醬油屋仲間間ニ潰鹽ニ事寄セ鹽商ヒ内分ニテ分賣等モ被致候仁モ在之由鹽仲間妨ニ相成旨致承知候條依之此度尙又總仲ケ間エ得ト申聞置候間此後聊ニテモ鹽商致可申旨申候ハハ鹽仲ケ間エ加入爲致可申候。尤モ潰シ鹽之儀ハ他所買積方運送等鹽屋同様ニ可致候猶又仕込鹽直賣ノ者ハ地買仲ケ

(27) 天明元年七月元鹽屋年寄ヨリ奉行所ニ對スル乍恐口上書、

(28) 醬油仲ケ間要用書。

而シテユノ一札ニ對シ元鹽屋年寄ヨリモ造醬油屋總代ニ宛テ一札ヲ出セリ全文ハ醬油仲ケ間要用書ニ出ツ、

間へ加入之儀不相成旨御尤致承知候。然ル上ハ鹽并計場見世先ニ差置候テハ鹽見世ト紛敷旨向後差置セ申間敷候其上不埒ノ仁モ在之候ハハ其許仲ケ間思召之通可被致候爲後日一札依テ如件

天明元丑年七月

造醬油屋總代

上組 梶屋五兵衛

中組 近江屋市郎兵衛

下組 小豆屋嘉兵衛

鹽屋年番

備前屋勘兵衛殿

其後屢潰鹽ト商鹽トノ紛淆ヲ生シタルモノノ如ク文化十三年三月ノ造醬油屋定法ニモ之ヲ規定シ
天保七年八月ニハ之レカ取締ニ關スル連印帳ヲモ造ルニ至レリ同帳ニ曰ク

『當仲ケ間(造醬油仲間)潰シ鹽之儀者鹽仲ケ間他所買株同様ニ買入候得共鹽商ヒ致候節者鹽仲ケ間エ加入イタシ潰シ鹽ト賣鹽ト混雜不相成候様可致趣急度相守可申儀申堅置候處年數相立候付自然右ケ條之趣忘却致居候者モ有之候而者仲ケ間取締之差妨ニ相成候儀ニ付尙又此度相改前書ケ條之趣彌堅相守潰鹽ト賣鹽ト混雜不致様正路ニ賣買可致候事』云々

ト。是ニ由リテ觀レハ鹽販賣ヲナスモノハ殿ニ上述ノ三仲間ニ限り、仲間以外ノ者ハ、ソガ造醬油屋株ニ屬スル場合ハ、製造用潰鹽ヲ買入ル特權アリシトスルモ、鹽ノ販賣ヲナスコトハ絕對ニ許サレザリシモノ也。

論說

京都ニ於ケル舊時ノ鹽屋仲間

第六卷 (第四號 四三) 四九五

(29) 醬油仲ケ間要用書

(30) 仲ケ間取締連印帳